

### 3. 寄稿：「何のために生まれたか？」の自問自答から始まった心塾サロン ～いつの時代も「目を輝かせる若者」たちが話し合いの場を求めている～ (心塾主宰、(株)プラスワン・ルネ国際研究所 代表 鍋 研風 Jr.)

昨年、渋沢栄一翁をNHKが大河ドラマ化し放映したが、その始まりにも、日本の将来を憂いながら、「篤い心」と「冷たい行」で、瞳を輝かせ「人々が幸せになるためにどうしたら良いのか、何をしたら良いのか」を、年齢関係なく仲間と議論する場面があった。

#### 心塾サロン

私は、昭和48年に、liberal arts (教養学) をベースとしたビジネスアドミニストレーション (BA) (経営学) の論文を教科書化するために、(株)プラスワン・ルネ国際研究所を創設した。

これに関し、暁星学園の先輩で、神学・哲学・言語学博士の石脇慶總氏が liberal arts のコアの哲学を、そして哲学・心理学博士の山口寛氏や戦中生まれの生物、物理、医学、歴史の研究者仲間が、その教科書化に2021年までアドバイスし続けてくれた。

この私塾運営のため、liberal arts 社会工学を基礎とする BA で、企業約50数社に経営アドバイスをしながら研究費を捻出し続けた。

1970年には、教科書化にサラリーマンを加え、理系・文系それぞれの勤勉な学生をインターシップとして受け入れ、活動の幅を広げると共に「プラスワンニュース」を創刊した。インターシップ学生は取材編集、調査・集計等を手伝わせ、記事も執筆させた。進路指導も併せて行い、こうして、学校では学べない心の修行場「心塾」のゼミが生まれた。



ゼミは神道研究者でもある石脇氏の古代ギリシャ哲学と、孔孟の思想や古事記・日本書紀を基礎に、心理・生物・物理・医学・歴史・経済・経営のカリキュラムで進行した。ゼミの後は、共に鍋とワインで懇談している。ここでは、ゼミ受講者の年齢を超えた人間同士の議論が交わされている。

#### ここでは、若者を育てると同時に私たちも育てられている

戦後、文部省規定の大学教育から喪失した哲学・リベラルアーツ指向の鍋ゼミに、紀伊國屋創業者の田辺茂一氏が賛同し、研究には欠かせない本・資料等を協力してくれた。

また、私がメディアに出て評論し、タレントにならない事を条件に、本田宗一郎の海外論文取り寄せ費用と学生の食材費・衣服等の運営協力をしてくれた。

彼は「若者目線の斬新なアイデアを求めているが、社員との懇談は、緊張して本音が出てこない。心塾ゼミ塾生は感性豊かで、本音で新規性溢れるアイデアや提案をしてくれる」と言って、時折、心塾ゼミ塾生との懇談に参加した。

ゼミ生が夏休み帰省時に、「様々な経営者と懇談しているよ」と本田宗一郎の名刺を父親に見せたところ「こんな凄い人とお前が会えるはずがない。どこから盗んできた！返してこい！」と叱られたというハプニングもあったくらいだ。



親御さんからは今も郷土の野菜やお米、お酒などを送ってくれ、それを感謝しながらゼミ塾生と食している。激動の高度成長期は、昭和の偉人から、多くを学べた実に豊かな時代であった。

学生は、経営者や勤務者から、構想・叡智が人生を豊かにすることを学び、各界の経営者は学生から、斬新な新規性溢れるアイデアや活気と英気を吸収する。

この循環が夢多き若者たちの人生観思考に多大なる影響を与えてくれており、現在も、北大・東北大・東大・京大の学生や研究者と、経営者、官僚、サラリーマンとが、ゼミをモバイルで受講し議論している。

### 人生の願い…生きる意味を持つ

共に飲食をしながら、「自分は何をしたいのか?」。受講しながら、人生の Vocation(召命)、Mission(使命)、Aspiration(召命を成し遂げるための夢)、Dream(使命を成し遂げるための夢)を議論している。

かつて、議論疲れで宿泊するゼミ塾生は、夏は早朝5時から神宮内苑散歩に出かけ、それを「哲学の道」と称して、パリパトス学派(プラトン時代から存在していたが逍遥学派とも言われる)のように散策しながらの議論が続く。

### 地球規模のリーダーを、日本の文化文明で育てることが私たちの責務

定量(言・行動)な技術開発と利便快適が優先して発展し、定性(知識・精神)なモラルと倫理忍耐と持続する努力が疎んじられていたために、現在、環境破壊の人類存続危機を招いている。SDGs の形式知で世界がそのツケを払う時代となってしまった。

私たちは、日本人としての生存理由を忘れた反省も含めて、モラルと倫理観を育む哲学を基礎に自然科学と社会科学を教示する責任を果たさなければならない。

### 今も「人々の定性の幸福のために」自分が夢アスピレーションを持つことが大切だと考えるゼミ塾生

高度成長時代やバブル時代を知らない若者たちが、今も将来の日本を憂いて、北は北海道、遠くはベトナムからリモートゼミを受講している。



受講生は中卒生から大学生、一般社会人、主婦から議員、省庁、大学教授、研究者と年齢もハイティーンから 80 代まで多岐に亘り、これまで通算で 600 余名が巣立っている。

covid-19 で一時休講したが、IT を駆使してリモートゼミを毎日開催している。社会人ゼミ塾生は、受講内容を実務の中にどう取り入れたかを受講毎に発表することを義務づけて、知見と行動を分離させないため、人々から信頼を得て、豊かさのある幸福を人々に分配している。

学生は、知見の理論が優先され、まだ霞がかかった状態であるドリームとアスピレーションの夢を模索しながら、まずは自分自身を知ることから始めている。

### 私の願い

現在、食事は共にできないが、ゼミ塾生たちが日本のリーダーとして、その次の世界を担うゼミ塾生が「心塾」の志を受け継いでくれることを願っている。